



埼玉県立熊谷図書館 令和8年度第3回資料展

資料と戦記から読む戦国時代

難攻不落の忍城を中心に

展示資料リスト

(展示期間：令和8年10月10日(土)～令和8年12月17日(木))

関東七名城のひとつである忍城は、戦国時代、「守り易く攻めにくい」(注)城として知られていました。小田原攻めの過程で行われた忍城の「水攻め」は、その特性を象徴する戦いとして語られています。本展示では、この「水攻め」の経緯や背景を読み解く手がかりとなる資料をはじめ、城主である成田氏長に、娘の甲斐姫、代々の成田氏や、攻城戦に関わった石田三成、さらに NHK 大河ドラマ『豊臣兄弟!』(2026 年 1 月-)で注目される豊臣秀吉など、忍城と関わりの深い人物に関する資料を展示します。

またそのほかにも、戦国時代における民衆の暮らしが分かる資料や、戦国時代について記された和装本や戦記物、忍城を舞台とする小説などの読み物も展示します。

(注)…「忍城の由来」
(平成三年三月 行田市) 参照
(行田市郷土博物館施設内)

このリストでは、総計 100 点にも及ぶ展示資料の中から、一部を紹介いたします。

- ▶ アスタリスクマーク(※)がついている資料は貸出用資料があります。それ以外の資料につきましては、館内をご利用ください。
- ▶ 埼玉県のマーク()がついている資料は、『埼玉県立図書館デジタルライブラリー』でもご覧いただけます。詳しくは右の二次元コードからご確認ください。



展示1「難攻不落の忍城」より

■S190.1/シ『新編武蔵風土記稿【第3期】第11巻』(蘆田伊人編集校訂 雄山閣 1977) ※

『新編武蔵風土記稿』は、徳川幕府が、文化7年(1810)から文政11年(1828)にかけて編纂した武蔵国の地誌です。各郡別郷村の沿革、名所、社寺名勝、古文書などを収めています。

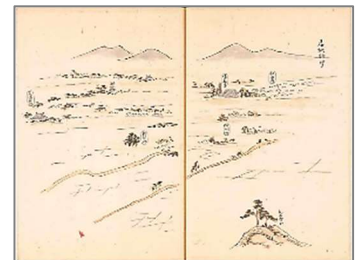
特に本資料では、忍城について総括的に論じています。

■S290.1/サ『忍名所図会 増補』(洞季香斎著 [出版者不明] 1856)

天保年間(1830-1844)の忍城周辺の約6万石忍藩領58村の名所旧蹟の風景や事項が描かれています。

忍藩士である佐竹香斎は、文政8年(1825)『忍名所図会』を一冊にまとめました。これが忍藩主松平忠堯の目にとまり、藩士岩崎長容に増補の命がくだされ、天保6年(1835)、同11年(1840)と二度改訂されました。

当館では天保11年版の写本を所蔵しています。今回展示に使用しているのは、その写本を複製したものです。



※展示資料：S290.1/サ『忍名所図会 増補』(洞季香斎著 [埼玉県立浦和図書館(製作)] [1981])

関連資料：S296.1/オ『忍名所図絵 復刊』(忍名所図絵編纂委員会編 行田市郷土文化会 1971)* など

■W210.1/ニ『日本外史 10』(頼襄撰 頼元協[ほか]校 象牙屋治郎兵衛 1829) 【和本】

『日本外史』は、源平二氏から徳川氏に至る武家の歴史書で、幕末から明治初年に至るまで流行しました。「巻之20」にあたる本資料には、石田三成による忍城攻めについての記述があります。

※関連資料：B210.1/ウ『日本外史 下 改訳』(頼山陽著 頼成一[ほか]訳 岩波書店 1981)* など

展示2 「忍城と武将」より

■210.46/カ『鎌倉公方九代記・鎌倉九代後記』（黒川眞道編 崙書房 1972）＊

「鎌倉九代後記」は、鎌倉公方・古河公方九代の間の関東における政治的事件を記述した史書です。成田氏長親子の確執や、豊臣秀吉の小田原攻めなどについての記述があります。

■210.088/タイ『大日本古文書 家わけ第8-4 毛利家文書之四』（東京大学史料編纂所編 東京大学 1924）

秀吉が小田原攻めに当たり、後北条氏の軍事力を調査し、味方の諸大名に配布した覚書である「関東八州諸城覚書」「北条氏人数覚書」を掲載。「成田 武州〔武蔵〕をしの城 千騎」などと記されています。

※《古文書フルテキストデータベース》(<https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/w10/search> 東京大学史料編纂所) で閲覧可能

■S261/イ『石田三成と忍城水攻め 特別展』（行田市郷土博物館編 行田市郷土博物館 2011）

行田市郷土博物館で平成23年2月5日から3月13日まで開催された同名の特別展の展示解説図録です。図録の執筆編集は、令和8年度文化講座の講師である鈴木紀三雄氏が担当されています。

展示3 「戦国時代の民衆たち」より

■210.088/タイ『大日本古記録〔第11〕 言経卿記』（東京大学史料編纂所編 岩波書店 1978）＊

『言経卿記』は、権中納言山科言経の天正4年（1576）から慶長13年（1608）までの日記です。言経は公卿でありながらもっぱら市井にあつて主として医業をもって生活の資としていたこともあり、市井の中の生活記録として、社会、風俗、年中行事、ことに能楽をはじめとする遊楽や文芸について詳細に記載されています。

■210.47/マ『政基公旅引付 本文篇・研究抄録篇・索引篇 日本史史料叢刊1』

（中世公家日記研究会編 和泉書院 1996）＊

210.47/マ『政基公旅引付 影印篇 日本史史料叢刊2』（中世公家日記研究会編 和泉書院 1996）＊

前関白九条政基が、文亀元年（1501）に京都を立ち、永正元年（1504）まで和泉国日根荘（現大阪府泉佐野市）に下向した際の日記です。荘園をめぐる領主・幕府・守護などの動向や、当時の荘民の日常生活が克明に記述されています。

展示4 「戦記等にみる忍城」より

■213/カ『関八州古戦録 改訂』（槇島昭武〔原著〕 中丸和伯校注 中丸和伯 新人物往来社 1976）＊

戦国時代の軍記物語です。天文14年（1545）-15年の河越城の戦から天正18年（1590）の徳川家康の関東入部までの四十五年間の関東の諸合戦、武将の逸話から成ります。忍城については、巻19に「武州忍の城、初度軍浸責事」が掲載されています。（原著は、享保11年（1726）槇島昭武の編集。）

※「関八州古戦録」【国立公文書館所蔵】の一部もパネルで展示しています。

右の二次元コードより国立公文書館のウェブサイトの資料の画像をご覧いただけます。



■S261/カ『新講談忍城の水攻』（神田伯竜〔著〕 大沢次郎 1940）

登場人物のセリフを交えた臨場感のある描写で忍城の水攻めが語られています。

『のぼうの城』でおなじみの成田長親、正木丹波、酒巻靱負の名前も見られます。

今回展示に使用しているのは、1940年に出版された資料を複製したものです。

※展示資料：S261/カ『新講談忍城の水攻』

（神田伯竜〔著〕 〔埼玉県立浦和図書館（製作）〕 〔2012〕）



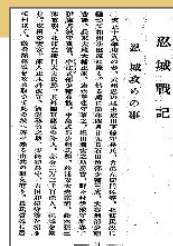
■S261/サ『忍城戦記』（酒井天外著 酒井惣七 1937）



忍城の水攻めを題材にした軍記物の代表作ともいえる作品で、忍城の各入口を
守備する武将の名や人数、石田三成らとの攻防戦などが時間の経過に沿って記述
されています。展示資料は、1937年に出版された資料を複製したものです。

※展示資料：S261/サ『忍城戦記』（酒井天外著 埼玉県立浦和図書館（製作））〔2012〕

関連資料：S288.3/ナ『成田記』（小沼十五郎保道著 大沢俊吉訳・解説 歴史図書社 1980）＊ など



■S288/コ『成田記』（小沼保道〔編述〕 石島儀助編 今津健之助 1940）

応永年間（1394-1428）から天正19年（1591）までの成田氏の事跡を記述したもので、成田氏の菩提
寺である龍淵寺が所蔵しています。成田氏の系譜、上杉謙信の関東侵攻、成田軍と豊臣軍の攻防戦など
が書かれています。

※関連資料：S261/ナ『行田市史 資料編 古代中世』（行田市史編さん委員会編 行田市 2012）＊ など
（付録に『成田記』がっています。）

■W913.56/シ『真書太閤記 11 篇 25』（栗原柳庵編 出版者・製作年不明）【和本】

栗原柳庵が明治に入ってから、豊臣秀吉の事跡を書きとめた記録『太閤記』などをもとにまとめた
ものです。本資料はその写本で、石田三成による忍城水攻めについて書かれています。

※関連資料《国書データベース》「重修真書太閤記」国文学研究資料館

4359 コマ目に忍城水攻めについて記載があります。右の二次元コードよりご覧いただけます。



展示5 「読み物でみる戦国時代」より

■S913/ワ『のぼうの城』（和田竜著 小学館 2007）＊

武州忍城の水攻めを描いた和田竜氏による歴史小説で、直木賞候補となり、映画化もされた有名作品
です。「図書館と県民のつどい埼玉 2026」では和田竜氏による記念講演を開催いたします。

「図書館と県民のつどい埼玉 2026」についての詳細は右の二次元コードよりご確認ください。



パネル展示より

本展示では、各地の博物館等に所蔵されている忍城に関する古文書や書状などのデジタル画像をパネルで
展示しています。（一部写しあり）

二次元コードを読み込んでいただくと、デジタル画像の所蔵館ウェブサイトから史料のデジタル画像を見る
ことができます。今回展示したもの以外にもたくさんの史料を見ることができますので、是非ご覧ください。

■「豊臣秀吉朱印状」（天正17年（1589）11月24日）【早稲田大学図書館所蔵】

北条氏に対する秀吉の宣戦布告状。北条氏の家臣猪俣邦憲が「なくるみの城」（名胡桃城）を奪った
ことから、北条氏討伐の兵をあげることとなりました。全五か条からなり、五条目には秀吉の宣伝文な
どが書かれています。宛名は北条氏直ですが、複数通作成され様々な大名家に送られました。

※『早稲田大学所蔵荻野研究室収集文書 下巻』＊などに活字の掲載があります。



■「石田三成書状写」（天正18年（1590）5月27日、「宇都宮氏家蔵文書」所収）【国立公文書館所蔵】

石田三成が佐竹義宣・宇都宮国綱に送った書状です。両人の小田原参陣を祝し、また三成自身も近日
中に城攻めのため出兵することが記されています。

※『新編埼玉県史 資料編 6（中世 2） 古文書』＊などに活字の掲載があります。



■「豊臣秀吉朱印状」（天正18年（1590）6月5日、『筑紫文書 巻3』写）所収）【国立国会図書館所蔵】

秀吉が岩付城・忍城などの攻略状況を筑後国山下城主・筑紫広門に伝えたものです。忍城攻めに
三成をはじめ佐竹義宣、宇都宮国綱など二万余の軍勢が動員されることが書かれています。

※『行田市史 資料編 古代中世』＊、『鴻巣市史 資料編 2 古代・中世』＊などに読み下しや解説文の
掲載があります。



■「豊臣秀吉朱印状（石田治部宛）」（天正 18 年(1590)6 月 20 日）【埼玉県立歴史と民俗の博物館所蔵】

豊臣秀吉から石田三成に、築堤の絵図を承認したので忍城の水攻めを油断なく行うよう命じたものです。また派遣する浅野長吉や真田昌幸とよく相談するようにとも書かれています。

※『行田市史 資料編 古代中世』*などに読み下しや解説文の掲載があります。



■「上杉景勝宛 豊臣秀吉朱印状」（天正 18 年(1590)6 月 29 日）【米沢市上杉博物館所蔵】

「各事、忍城人数入候者」から始まるこの文書は、秀吉が上杉景勝に忍城攻めの援軍を送るにあたり、「さかわ川」（酒匂川）の前に陣取りをするよう命じたものです。

※『鴻巣市史 資料編 2 古代・中世』*などに読み下しや解説文の掲載があります。



■「上杉景勝他 3 名宛 豊臣秀吉朱印状」（天正 18 年(1590)7 月 6 日）【米沢市上杉博物館所蔵】

秀吉が小田原落城に伴う戦後処理を上杉景勝らに伝えたものです。忍城攻めのために景勝らの出陣と、水攻めのための堤（石田堤）の修復を命じています。また秀吉は 7 月 14, 15 日ごろに岩付城の視察を行い、その際に堤を見物する予定がある旨の記載もあります。

※『行田市史 資料編 古代中世』*、『鴻巣市史 資料編 2 古代・中世』*などに読み下しや解説文の掲載があります。



■「天正年間成田氏忍城之図」（明治 21 年（1888）写、明治 39 年（1906）11 月 11 日補訂）

【行田市郷土博物館所蔵】

「天正年間武蔵忍城之図」をもとに、郷土史家清水雪扇が明治 21 年に模写し、忍城攻めに参陣した諸将の名前を同 39 年に書き加えたものです。

※『熊谷市史 通史編上巻 原始・古代・中世』*などに上記図の掲載があります。



参考資料

- R031/㊦『世界大百科事典 改訂新版』（平凡社 2007）
R210.03/㊦『国史大辞典 9』（国史大辞典編集委員会編 吉川弘文館 1988）
R210.03/㊦『史籍解題辞典 上巻 古代・中世編』（竹内理三編 東京堂出版 1986）
R210.031/㊦『日本史文献解題辞典』（加藤友康編 吉川弘文館 2000）
R910.3/㊦『日本古典文学大辞典』（日本古典文学大辞典編集委員会 編 岩波書店 1983-1985）
S201/㊦『新編埼玉県史 資料編 6（中世 2） 古文書』（埼玉県編 埼玉県 1980）
S214/㊦『鴻巣市史 資料編 2 古代・中世』（鴻巣市市史編さん調査会 編 鴻巣市 1991）
S261/㊦『石田三成と忍城水攻め 特別展』（行田市郷土博物館 編 行田市郷土博物館 2011）
S261/㊦『行田市史 資料編 古代中世』（行田市史編さん委員会 編 行田市 2012）
《国書データベース》(<https://kokusho.nijl.ac.jp/> 国文学研究資料館)



気になる資料がありましたら、展示ケースからお出ししますので、職員までお声がけください。

資料展「資料と戦記から読む戦国時代 難攻不落の忍城を中心に」の概要や資料リスト等は、埼玉県立図書館のウェブサイトにも掲載しています。
こちらの二次元コードからご確認ください。



埼玉県立熊谷図書館 人文・社会科学資料担当

〒360-0014 埼玉県熊谷市箱田 5-6-1

TEL : 048-523-6291

埼玉県立図書館ウェブサイトトップページ ▶▶



埼玉県の
マスコット
「コバトン」